

仙台市路面下空洞調査業務に係る公募型プロポーザル審査委員会 議事録

■ 開催日時

令和元年8月30日(金) 10:00~11:00

■ 開催場所

仙台市役所本庁舎2階 第4委員会室

■ 出席委員

| | |
|-------|------------------------|
| 千葉 幸喜 | 建設局次長兼道路部長 (委員長) |
| 山田 真幸 | 東北工業大学工学部都市マネジメント学科准教授 |
| 権 永哲 | 東北工業大学工学部都市マネジメント学科准教授 |
| 上野 喜幸 | 青葉区建設部道路課長 |
| 河西 義人 | 建設局道路部道路計画課長 |
| 大友 修 | 建設局道路部道路保全課長 |

■ 事務局

| | |
|-------|--------------------|
| 菊池 信幸 | 建設局道路部道路保全課主幹 |
| 今野 涉史 | 建設局道路部道路保全課保全計画係長 |
| 宇田 瑞英 | 建設局道路部道路保全課保全計画係主査 |
| 後藤美菜子 | 建設局道路部道路保全課保全計画係技師 |
| 大沼 武尊 | 建設局道路部道路保全課保全計画係技師 |

■ 次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 委員の紹介
4. 議 事
 - (1) 事業概要
 - (2) 募集要綱 (案) について
 - (3) 評価基準 (案) について
5. その他
6. 閉 会

■ 議 事

1. 開会

○事務局（菊池主幹）

- ・ただいまより「第1回仙台市路面下空洞調査業務に係る公募型プロポーザル審査委員会」を開会する。

《配布資料の確認》

2. あいさつ

○千葉次長

- ・ 本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。
- ・ 路面下空洞調査に関して、仙台市では平成25年から調査を始めている。
- ・ 昭和30年代の高度経済成長期等に下水道をはじめとした様々なインフラの整備が進み、近年それらが耐用年数を迎える時期になり、全国的に路面下の空洞による陥没等が発生しているところである。
- ・ 道路管理者として安全を守るため、しっかりと調査しながら対策を進めていきたいということで始まっている。
- ・ 仙台市では、下水道でアセットマネジメントシステムを構築しながら、老朽化の計画的な更新も進めており、路面下空洞調査も実施しながら、両面で安全対策を進めていくことを考えている。
- ・ 昨年の道路法改正で道路占有者の管理義務が示され、管理責任が明確にされた。
- ・ 平成28年度からプロポーザル方式を採用し、今回で4回目になる。その都度、仕様書等を修正し、しっかりとした内容になってきている。
- ・ 本日は、新たな視点で、ご意見等忌憚のない議論をお願いする。

3. 委員の紹介

○事務局（菊池主幹）

《委員の紹介》

4. 議事

○事務局（菊池主幹）

- ・ 議事に入る前に、本日の会議の成立について確認する。
- ・ 会議の成立に関しては、審査委員会設置要綱第5条第2項の規定により、委員の過半数の出席が必要である。
- ・ 本日は建設局道路部道路管理課長 宍戸亨委員、公益社団法人地盤工学会東北支部幹事 阿部友美委員が欠席だが、過半数の出席をいただいているため、会議が成立していることをご報告する。
- ・ 議事に入る。
- ・ 議長は、審査委員会設置要綱第5条第1項の規定に基づき、委員長が務めることになっており、ここからは、千葉委員長へ議事の進行をお願いする。

○千葉委員長

- ・ はじめに、議事録署名人の指名だが、権永哲委員にお願いしたいと思うが、いかがか。
- ・ それでは、よろしく願います。
- ・ この会議の公開、非公開について確認する。
- ・ 本委員会については、原則として公開とし、特定の個人を識別し得るような情報や法人その他の団体に関する情報であって、その利益を害するおそれがあると認められる情報を扱う場合などは、非公開とさせていただくということによろしいか。
- ・ 傍聴人へのお願いだが、会議の傍聴に係るルールについて、これを守っていただいて、円滑な会議の進行にご協力いただきたい。
- ・ それでは議事に入る。事務局より(1)の事業概要について、説明願う。

○事務局（今野係長）

- ・ お配りしている資料1に基づき説明する。

《資料1に基づき説明》

○千葉委員長

- ・ ただいまの説明について、質問があれば挙手の上発言願う。

○千葉委員長

- ・ それでは、議事(2)の募集要綱（案）について、事務局より説明願う。

○事務局（宇田主査）

- ・ お配りしている資料2に基づき説明する。

《資料2に基づき説明》

○千葉委員長

- ・ ただいまの説明について、質問があれば挙手の上発言願う。

○権委員

- ・ 1次調査において、探査深度の指定はないのか。

○千葉委員長

- ・ 探査深度は、各社の技術力に差が出てくることになる。
- ・ 1. 5m程度が標準的であるが、各社の探査車の性能で、どの程度の探査深度まで調査できるのかという点が技術提案における評価ポイントになる。

○事務局（宇田主査）

- ・ 1次調査の探査深度は、特記仕様書で「1. 5m程度行えるもの」としている。

○山田委員

- ・ 山間部の路線が調査対象となっており、降雪や速度の速い自動車が通行することが想定される。
- ・ 2次調査は、特別な配慮が必要ではないか。

○事務局（宇田主査）

- ・ 委員ご指摘の点は、契約を締結した受注者と調整しながら、調査を実施する。

○千葉委員長

- ・ 安全対策についても配慮するようお願いする。

○千葉委員長

- ・ その他、質問はないか。
- ・ 募集要項（案）について、お気付きの点があれば、9月3日(火)までにメールや電話で事務局までご連絡いただきたい。
- ・ 本日の意見や追加の意見も含め、事務局が整理し募集要項へ反映させることとしたい。
- ・ 記載等に関しては、委員長に一任させていただきたい。

○千葉委員長

- ・ 次に、議事(3)の評価基準（案）について、事務局より説明願う。

○事務局（宇田主査）

- ・ お配りしている資料3-1および資料3-2に基づき説明する。
《資料3-1, 3-2に基づき説明》

○千葉委員長

- ・ ただいまの説明について、質問があれば挙手の上発言願う。

○河西委員

- ・ 技術提案書の特定で、評価点が同じ場合の対応を考慮する必要があるのではないか。
- ・ 技術提案内容の評価点が高い方を優先すること等を事前に決めておけば、技術提案書の特定が容易になると考える。
- ・ 検討していただきたい。

○事務局（今野係長）

- ・ 価格だけでなく技術力も含めて評価したいということで、プロポーザル方式を採用した。
- ・ 資料3-2の表-1に示しているように技術提案内容の配点が全体の半分になっている。
- ・ 委員ご指摘のように、評価点が同じになる場合が考えられることから、優先する項目を明記する。

○千葉委員長

- ・ その他、質問はないか。

○千葉委員長

- ・ 昨年度から、評価項目の配点を少しずつ見直し、技術力を中心とした評価にすることとした。
- ・ 今年度についても、技術力を中心にプロポーザルを審査することとする。
- ・ 評価基準（案）についても、お気付きの点があれば、9月3日(火)までにメールや電話で事務局までご連絡いただきたい。
- ・ 本日の意見や追加の意見も含め、事務局が整理し評価基準へ反映させることとしたい。
- ・ 記載等に関しては、委員長に一任させていただきたい。
- ・ それでは、議題は以上になる。
- ・ 全般的に、意見や質問はないか。

○千葉委員長

- ・ 昨年度は、大規模に歩道調査を実施した。
- ・ 歩道調査の状況は、どうだったのか。

○事務局（宇田主査）

- ・ 昨年度は、定禅寺通や中央通、宮城野通の約3.7kmの歩道調査を実施した。
- ・ 占用管が輻輳している箇所、空洞を多く発見した。

○千葉委員長

- ・ ある程度危険度の高い空洞が調査中に発見した場合、すぐに区役所と連携し応急対策をとっている。
- ・ 安全確保が目的なので、調査途中でも浅く広い空洞は、応急対策をするということを進めていることで良いか。

○事務局（宇田主査）

- ・ 調査中に応急対策が必要になる空洞が発見されれば、受注者からすぐに報告を受け、対応している。
- ・ また、昨年度の調査で危険度の高い空洞を発見していることから、今年度中の対策を区役所をお願いしている。

○千葉委員長

- ・ その他、質問はないか。

○山田委員

- ・ 調査結果は、公開しているのか。

○事務局（宇田主査）

- ・ 公開していない。

○権委員

- ・ 単なる調査ではなく、空洞の発生原因に関する調査は実施しないのか。

○事務局（宇田主査）

- ・ 空洞の発生原因に関する調査はしていない。
- ・ 対策工事を実施する区役所の担当から、空洞の原因の多くは、地下に埋設された占用管が破損し、周囲の土砂を引っ張ってしまうことにあると聞いている。
- ・ 対策工事は、空洞に蛍光色の液体を流し、空洞の発生原因を特定したうえで、実施していると聞いている。
- ・ 対策工事を実施しながら、少しずつ原因を究明していきたいと考えている。

○大友委員

- ・ 下水や水道などの地下に埋設された占用管の管理者の立会いのもと、その空洞を掘削する。
- ・ 掘削した結果、水道管から漏水していたり、下水道の取出管が破損していたりする場合、その原因者に管を直してもらいながら、空洞も直してもらう。
- ・ 関係する地下に埋設された占用管の管理者の立会いのもと、空洞の発生原因を究明しながら復旧している。

○権委員

- ・ そのような結果によって、データが蓄積すれば、集中して維持管理が必要となる箇所の特定ができるということか。

○大友委員

- ・ データが蓄積されていけば、場所によっては、集中して維持管理が必要となる箇所の特定が可能になる。

○権委員

- ・ 地下に埋設された占用管は、1.5mという深度の中に埋設されているのか。

○大友委員

- ・ 地下に埋設された占用管の土被りは、水道管は80cm程度、下水道管は1.2m程度であることから、探査深度を1.5m程度としている。

○千葉委員長

- ・ 1.5mより深いところのトラブルもあるが、深度が浅くて広いものが陥没に繋がると定義し、調査を実施している。
- ・ 1.5mより深いところも調査したいが、技術的な関係から1.5m程度までの深度の調査を実施している。

○権委員

- ・ 地盤が弱い場所は、地震等によって空洞が発生する可能性もあると思う。
- ・ そこは、ターゲットにしないのか。

○事務局（宇田主査）

- ・ 昨年度は、開削工法で地下鉄工事を実施した箇所をターゲットに東二番町通などで調査を実施した。
- ・ 契約締結した受注者からの提案も受けながら、調査を実施している。

○千葉委員長

- ・ その他、質問はないか。

○山田委員

- ・ 対策工事を実施した後、再度、確認する体制はあるのか。

○事務局（宇田主査）

- ・ 平成25年度と平成26年度に仙台市内全体の調査を実施し、対策工事だけでなく、追跡調査も実施してきた。
- ・ また、平成25年度と平成26年度に調査した路線と昨年度と今年度の調査路線で重なる路線がある。そのため、過年度調査で発見した空洞の経年変化や原因究明ができると考えている。
- ・ 調査路線を選定するうえで、経年変化を確認するということも考えている。

○千葉委員長

- ・ その他、質問はないか。
- ・ それでは、本日の審議は終了ということで、進行を事務局に返す。

5. その他

○事務局（菊池主幹）

- ・ その他として何かあるか。

○事務局（今野係長）

- ・ 次回の審査委員会は、提案内容のプレゼンテーションと技術提案書の審査という内容で開催させて頂きたいと考えている。
- ・ 開催日は、10月30日(水)を予定しているが、後日、委員の方と調整させていただく。

○河西委員

- ・ 次回の技術提案書は事前に配られるのか。

○千葉委員長

- ・ 事前に応募者が技術提案書を提出し、当日説明を受けることになる。

○事務局（今野係長）

- ・ 技術提案書の受付〆切は、第2回審査委員会の1週間前としていることから、その間に委員の皆様方に事前送付させていただく。

6. 閉会

○事務局（菊池主幹）

- ・ それでは、以上を持って第1回仙台市路面下空洞調査業務に係る公募型プロポーザル審査委員会を閉会する。